

MUSICAL INSTRUMENT

PURCHASE SEMINAR

楽器買取セミナー

サックス・トランペット編



アプレ楽器

楽器買取セミナー

サククス・トランペット編

目次

table of contents

- 第1章：管楽器（サククス）の買取注意点
- 第2章：管楽器（サククス）の種類
- 第3章：アルトサククスとテナーサククスの判別
- 第4章：サククスのメーカー・モデルの判別
- 第5章：サククスの付属品・マウスピースについて
- 第6章：遠隔サポート撮影のポイント
- 第7章：管楽器（トランペット）の買取注意点
- 第8章：管楽器（トランペット）の種類
- 第9章：トランペットのメーカー・モデルの判別
- 第10章：トランペットの付属品・マウスピースについて
- 第11章：遠隔サポート撮影のポイント

第1章 管楽器（サクソ）の買取注意点

サクソ



管楽器の種類は非常に多く、マイナーな管楽器も細分化されています。

その一方で、査定時の共通点も多いので、今回は「サクソ」に焦点を合わせてご説明いたします。

各管楽器との共通意識としては、「傷・凹み・塗装剥がれ・変形・錆などの確認」が必要となります。

特に、「凹みや変形」は楽器としての価値に支障が出てしまいますので要注意です。



楽器は使用していると自然に傷んでいきます。

まずは細かな傷がつき、塗装が剥がれてきた後に錆ついてしまうパターンが多く、塗装が剥がれてきている段階で査定額に大きく影響が生まれます。

細かな引っ掻き傷については、査定額への影響は少ないですが、パーツの破損は査定上注意すべき点になります。



左の画像は、バネ部分の破損です。

他にも、タンポ破け・コルク落ち等様々なパターンが存在します。

第1章 管楽器（サックス）の買取注意点

サックス



湾曲や変形は、主に使用中の落下などが原因となりますが、管体が湾曲してしまうと査定額に大きく影響します。

よく見られるのが、ベル部分の湾曲ですが、ベル部分は修復可能な場合があります。

ただし、管体の細い箇所など修復費用の方が高くなる可能性があるため注意が必要です。



大きく凹むパターンや、えくぼ程の小さな凹みまで様々ですが、管体に対しての凹み具合が重要となりますので、小さな凹みでも査定に大きく影響する場合があります。



第2章 管楽器（サククス）の種類

サククス

メジャーな種類で大きく分けて、4種類のサククスが存在します。
主に大きさで分類されますので、形状で判断が可能です。



ソプラノサククス

例：YAMAHA YSS-875EX

サククスの中でも一番管体が細く短く作られています。一般的なものは真っ直ぐなのが特徴的です。



アルトサククス

例：YAMAHA YAS-62

最もポピュラーで人気があり、テナーよりやや小さいです。



テナーサククス

例：YAMAHA YTS-480

アルトサククスに次いで人気があり、ネックの曲線が特徴的です。



バリトンサククス

例：YAMAHA YBS-62II

一際大きく太く作られており、ネック付近の管体が複雑な曲線になっています。

第3章 アルトサククスとテナーサククスの判別

サククス

サククスの中でも最も多いのが、アルトサククスとテナーサククスですが、この2種類は形状の相違が少なく、大きさのみでの判断が難しい場合があります。

しかし、簡単な見極め方法があります。

それは「ネックの形状」です。

比較的真っ直ぐ伸びてるアルトサククスに比べて、一度下にうねるような曲線になっているのがテナーサククスです。

正面からでは判断が難しいので、横から撮影した次の画像でご確認ください。

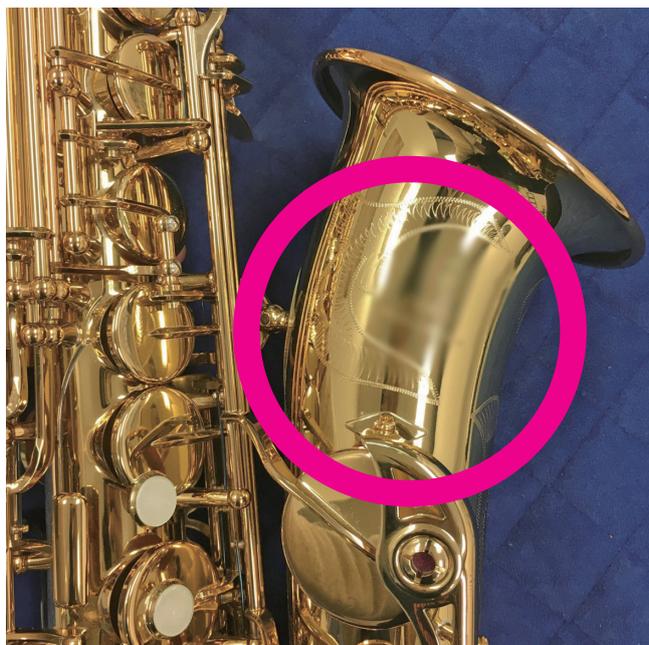


第4章 サックスのメーカー・モデルの判別

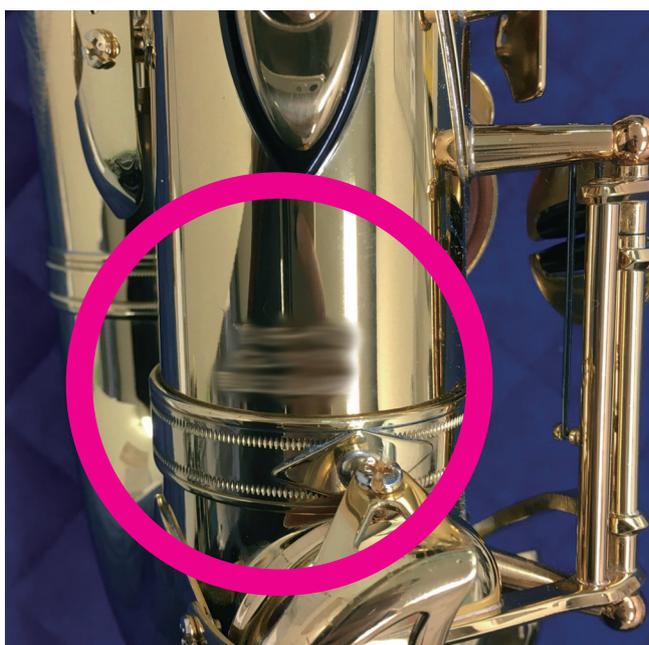
サックス

サックスのメーカーモデル名の判別は管体に刻印されている場合が多く、刻印箇所も基本的に2パターンしかありません

1 ベル付近にメーカー・モデル（シリーズ名）が刻印されている場合



2 U字管（本体下部）の裏付近にメーカー・モデル・シリアルが刻印されている場合



第5章 サックスの付属品・マウスピースについて

サックス

サックスを演奏する上で必要不可欠なのが「マウスピース」です。このマウスピースによって音色や吹奏感が変わってきますので、非常に重要な役割を果たしています。人によって好みも様々でただの付属品ではなく、商品としても販売されており中古でも需要があります。高いもので中古相場数万円以上のものがありますので、見落とし厳禁です。



大まかにマウスピースと言っても、それだけでは機能しないので、「リード」「リガチャー」も不可欠となります。しかし、これらが査定に大きく影響することはありません。

第6章 遠隔サポート撮影のポイント

サククス

※側面から形状が分かるように撮影してください。



※全体・刻印アップの鮮明な写真があるとより正確な査定が可能です。



※キズや割れ、汚れなどがある場合は別途必ず撮影してください。

※シリアル番号やブランド名など刻印位置は楽器によって異なります。



※刻印がわかるように撮影してください。

モデル名やシリアルナンバーの記載がない場合

サククスには、メーカー名の記載のみでモデル名の記載がないことが多々あります。その際は形状・仕様などから特定する必要があります。



※ケースや保証書、認定書などの付属品がある場合は撮影してください。

第7章 管楽器（トランペット）の買取注意点

トランペット



サククスに続いて奏者も多く、ポピュラーであるのが「トランペット」です。

サククスと同じく、「傷・凹み・塗装剥がれ・変形・錆などの確認」が必要となります。

特に、「凹みや変形」は楽器としての価値に支障が出てしまいますので要注意です。



また、多くの場合、ピストンが固着して動かなくなっている状態の物がありますが、ピストン部の分解清掃・調整は比較的簡単に行えるため、大きなマイナスポイントにはなりません。

第8章 管楽器（トランペット）の種類

トランペット

メジャーな種類で大きく分けて、4種類のトランペットが存在します。
主に大きさで分類されますので、形状で判断が可能です。



ロータリートランペット

例：YAMAHA YTR-938FFMS

一般的なトランペットはピストン式ですが、こちらはロータリー式となっているのが特徴です。

ピッコロトランペット

例：YAMAHA YTR-6810S

管の長さはトランペットの約半分で、ピストンが4つあります。



コルネット

例：YAMAHA YCR-8335

一般的なトランペットに比べて、管体が短いのが特徴です。

フリューゲルホルン

例：YAMAHA YFH-8310Z

抜き差し管がピストンと平行に縦についているのが特徴です。

第9章 トランペットのメーカー・モデルの判別

トランペット

トランペットのメーカー・モデル名もサクソと同様に管体に刻印されている場合がほとんどです。刻印箇所は基本的に3パターンです。

1 第2ピストン部に刻印されている場合



2 ベルにメーカー・モデル・シリアルが刻印されている場合



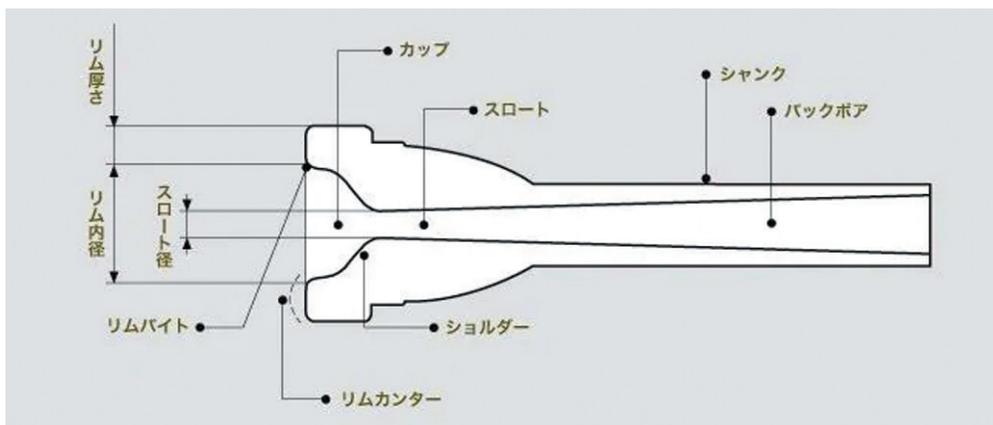
3 マウスピースレシーバー（マウスピースを差し込む場所）に刻印されている場合



第10章 トランペットの付属品・マウスピースについて

トランペット

トランペットのマウスピースは、基本的には真鍮で作られており、リムの厚さやカップの深さなどの細かい仕様から、表面が銀メッキや金メッキで仕上げられているなど豊富な種類があります。中には中古市場で1本数万以上で取引されている物もありますので、見落とし厳禁です。



第11章 遠隔サポート撮影のポイント

管楽器



- ※シリアル番号やブランド名など刻印位置は楽器によって異なります。
- ※全体・刻印アップの鮮明な写真があるとより正確な査定が可能です。
- ※キズや割れ、汚れなどがある場合は別途必ず撮影してください。
- ※ケースや保証書、認定書などの付属品がある場合は撮影してください。



※刻印がわかるように撮影してください。



モデル名やシリアルナンバーの記載がない場合

管楽器には、メーカー名の記載のみでモデル名の記載がないことが多々あります。その際は形状・仕様などから特定する必要があります。

